

わたしのお寺、みんなのお寺

宮南 靖（東京教区）

「親鸞聖人がご宿泊され、おみのりを説かれた家がありました。聖人が横を流れる川を渡られたのち、向こう岸から空に向かって南無阿弥陀仏と書かれたら、家のあるじの持つ紙に南無阿弥陀仏の文字が浮かび上りました。その家がお寺のルーツです」とご住職（東京教区正淨寺）。

お寺には、門徒推進員の会、高齢者の無量寿会、青年と壮年合同の会、婦人の会、雅楽の会という5つの活動団体があります。それを34の地区代表から構成される総代会が取りまとめ（事業計画・予算の承認と会計監査）をされています。ご住職、坊守様は計画を承認する立場ですが、細かい運営には口を出さない方針だそうです。

お寺では、報恩講やお彼岸はもちろんのこと、毎月の常例法座がお勤まりになり、その法座に34地区から多くのご門徒さんが当番制で奉仕なさっています。お斎の献立は当番地区の農家が持ち寄った食材を見てから決められるそうです。各団体もお磨きや清掃、ピザを焼く担当などに分かれて準備に当たられます。初参式、入学、喜寿、米寿祝いの行事も各団体がサポートして開催しています。

「過疎化が進む地区ではありますが、地域当番制で団体に入ってない若い世代も母親の後ろ姿を見ながらご奉仕する習慣を育んでおられます」と坊守様は仰います。また、組内の寺院に所属される仏社会員と合同のボーリング大会が開かれるほか、組全体の研修会などでも交流を図っておられます。

750年の歴史に裏付けされる、地区組織と5つの団体の組み合せが成す絶妙な仕組み。そして、その上に立つ血の通った温かい交流。ご住職、坊守様と各門徒グループが、我が事として「わたしのお寺」を誇りとし、「みんなのためのお寺」のために励んでおられる姿には、感動以外の何も浮かびませんでした。

